

「中谷小学校の奴踊り伝承活動の取組」

1 学校名

曾於市立中谷小学校

2 学年・人数

中谷小学校児童（今年度は1～5年生児童 8名）

協力者 中谷小学校卒業生で協力できる中学生（今年度は2名）

未就学児（今年度は2名）

3 日時・場所

(1) 練習の日時

毎年4月開催の「溝ノ口洞穴祭り」における披露までの約二カ月間（週2回程度）

中谷小学校体育館（夕食後）

(2) 発表の日時・場所

毎年お釈迦様の誕生日（4月8日）に一番近い日曜日

平成31年度（令和元年度）は4月7日（日）の午前中実施

溝ノ口洞穴「溝ノ口洞穴祭り（昭和30年1月14日 県指定天然記念物指定）」

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

奴踊り（やっこおどり） [曾於市指定無形民俗文化財]

(2) 由来

戦勝祝いの踊りとして始まったなど諸説あるが、踊りの構成も様々で由来や開始期は定かではない。現在の伝承者によると、溝ノ口洞穴の所在する溝ノ口集落の若い女児だけで踊っていたのが、子どもの減少につれ男の子も加わり、やがて小学校区全体で取り組むようになったとのことである。現在は一部卒業生も協力して継承している。

(3) 構成等

色鮮やかな衣装を身に纏い、鉢巻をし、鼻に白い縦筋のある独特の化粧をした男女が扇子を持って一団となって踊る。踊りは戦いにちなんだ動き、数え歌、嫁に行くまでを表現したものなど数曲で構成されていて、太鼓や三味線の生演奏（CDによる演奏になることもある）に乗せて踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

基本的には溝ノ口集落の住民で保存会を組織して伝承活動を行っているが、中谷小学校全児童が踊り手となってきた頃から子供会育成会（小学校の全保護者で構成）も、練習や行事の参加・運営に協力している。

洞穴祭では、同じように地域で伝承されてきた成人男子による「棒踊り（刀踊りと隔年で披露）」と前後して披露される。洞穴祭での披露の後、校区内にある馬頭観音に向いて踊るのも慣習となっている。また、洞穴祭を見に行けない住民もいることから、洞穴祭に先立っ

て小学校の校庭で踊り、洞穴祭終了後に各集落で行われる「春祈念」でも踊るなど、広く校区の住民にもその取組をアピールして保存の気運を高めている。

また、県や市の文化祭などの出演依頼にも応えており、新聞でも毎年のように報道されていることから、広く全県下で知られるようになってきている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校教育における伝承活動が難しい状況があったため、保存会と育成会が連携して、学校開放の形で夕食後に練習をしている。

伝承者が高齢になってきたため、小学生時代に踊った経験のある地元の成人女性に踊りの指導を依頼し、毎年指導に当たっていただいている。また、伴奏者がそろわなくても練習や発表ができるように、伴奏をCDに保存して活用している。

伴奏者の後継者育成がなされてこなかったことから、最近では後継者育成についての話合いももたれるようになってはいるが、難しい状況が続いている。

7 取組の様子



溝ノ口洞穴前での奴踊り披露
(溝ノ口洞穴 平成31年4月7日実施)



本番前の練習のようす
(中谷小校庭 平成31年4月7日実施)

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童】

- ・ 大勢の前で踊るのはとても緊張するけど、練習のとおりうまく踊れて良かった。もっと練習してうまくなり、先輩方が引き継いできた奴踊りをしっかりと引き継いでいきたい。

【保護者】

- ・ パワースポットとして注目されている神秘的な洞穴で、自分の子どもたちが注目を浴びて活躍している姿は誇らしいし、子どもたちの自信にもつながると思う。

【保存会から】

- ・ 昔中小学生として踊っていた人たちが、今では青年となって棒踊り（刀踊り）を披露する立場になっている。今の子どもたちもやがては故郷で大人の踊りを踊ったり、奴踊りを伝えたりしてほしい。

【学校職員】

- ・ 大勢の観客の前で踊ることは、児童にとって、非常によい体験となっている。年々小学生が少なくなっている実態があるが、これからも取組を継続して行ってほしい。